

今後の情報モラル教育等の方向性について

令和 5 年度「スマホや PC、ゲーム機等とのよりよい関わりに向けたアンケート」が実施された。

「1 アンケート結果（諏訪市分）について」を踏まえ、情報モラル教育に関する以下の 4 つの視点から今後の情報モラル教育や取り組みの方向性を考える。

【情報社会の倫理】

情報に関する自他の権利を尊重して責任ある行動を取る態度を身に付ける。

【法の理解と遵守】

情報社会におけるルールやマナー、法律があることを理解し、それらを守ろうとする態度を身に付ける。

【安全への知恵】

情報社会の危険から身を守り、危険を予測し、被害を予防する知識や態度を身に付ける。

【情報セキュリティ】

生活の中で必要となる情報セキュリティの基本的な考え方、情報セキュリティを確保するための対策・対応についての知識を身に付ける。

1 アンケート結果（諏訪市分）について

I 趣旨

教員や小児科医らで構成する「子どもとメディア信州」と長野県・長野県教育委員会が、児童生徒の ICT 機器の利用実態や保護者の認識を把握し、安全安心かつ積極的な利活用の推進にむけた検討資料とするため、令和 2 年度から本調査を実施している。

II 調査対象及び回答数

調査対象	回答数（人）	学年別内訳（人）
小学生	742	3 年生 185 、4 年生 193 、5 年生 167 、6 年生 197
中学生	700	1 年生 242 、2 年生 219 、3 年生 239
保護者	小 267	3 年生 62 、4 年生 68 、5 年生 75 、6 年生 62
	中 81	1 年生 31 、2 年生 22 、3 年生 28
合計	1,790	

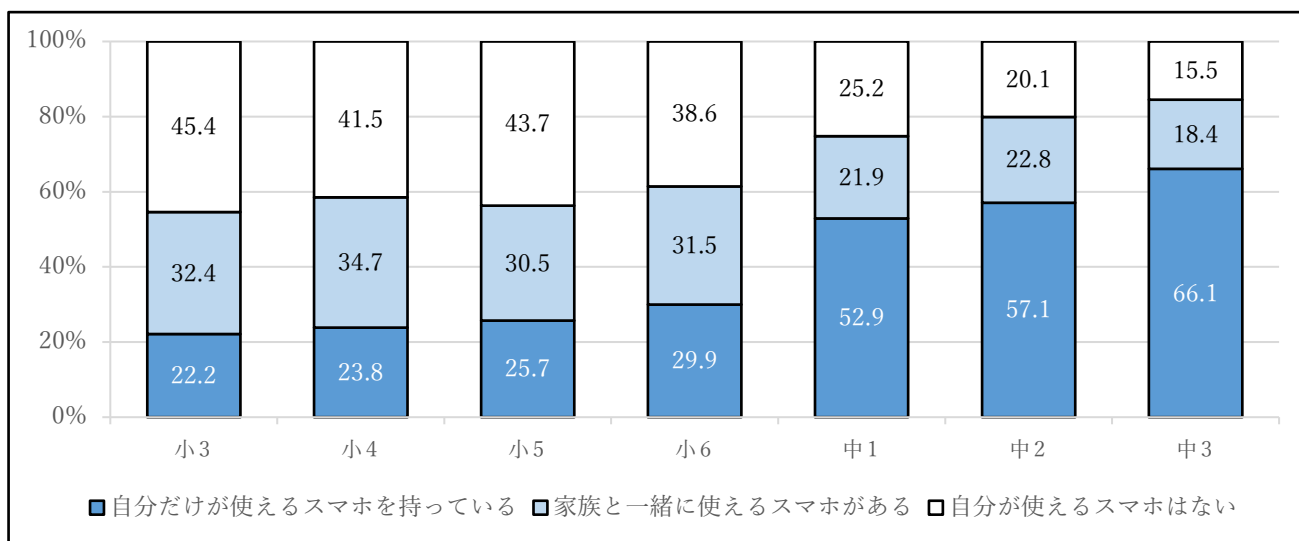
III 実施時期および調査方法

- ・児童生徒調査は 5 月～9 月に各学校で 1 人 1 台端末からフォームに入力して回答
- ・保護者調査は 7・8 月に学校を通じて協力を呼びかけ、所持する端末からフォームに入力して回答

Ⅳ 調査結果

1 スマートフォンの所有とＩＣＴ機器の用途、使用時間など

(1) スマートフォンの所有状況 (児童生徒 単一回答 単位：％)

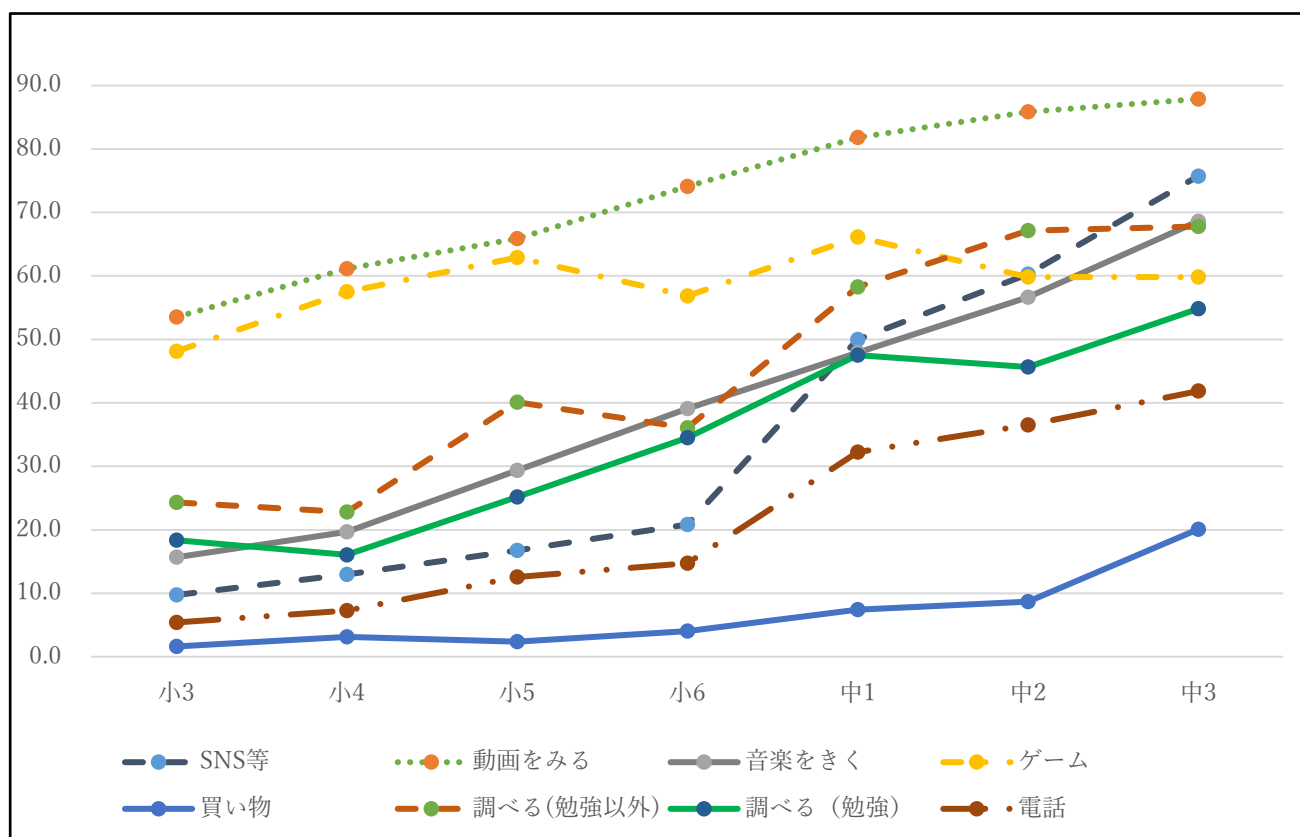


- ・長野県と比較すると、「自分だけが使えるスマホがある」と答えた児童は、小3で5ポイント高いが小4～6は同程度である。中学生は、中1が6ポイント高いがその他の学年では同程度である。
- ・昨年度と比較すると、「自分だけが使えるスマホがある」と答えた児童生徒の割合は全体的に増加傾向だが、その中でも特に中1では10ポイント程度高くなっている。

今後の情報モラル教育等の方向性について

(2) ICT機器の用途

①学年別「スマホやパソコン、タブレットでよくやっていること」(児童生徒 複数回答 単位：%)



②よくやっているSNS(児童生徒・複数回答 単位：%)

	LINE	Instagram	Twitter	TikTok	Facebook	位置アプリ	メタバース
小学生	22.6	4.2	3.9	16.7	1.8	1.3	1.1
中学生	63.9	34.9	25.4	40.9	4.9	3.4	3.0

- ・ICT機器の用途は、動画の視聴やゲームが上位となっているが、SNSの使用は中学生になると倍以上になり、中3になるとゲームより多くなる。
- ・昨年度と比較すると、SNSの使用は中1で10ポイント程度高くなっている。それ以外は全体的に同じ傾向である。

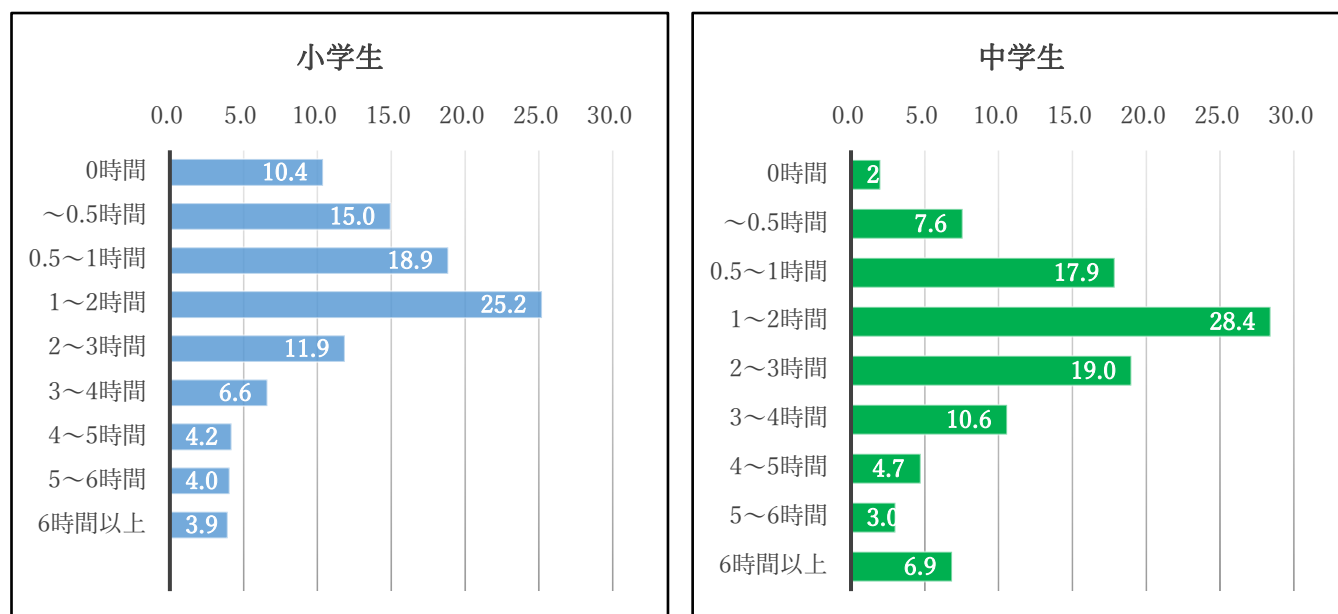
(3) 何時間使用しているか(平日・学習)について(児童生徒 単位：%)

	1時間未満	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4～5時間	5～6時間	6時間以上
小学生	79.0	10.5	3.8	2.3	1.5	1.2	1.8
中学生	78.1	11.1	4.1	2.7	1.3	0.6	2.0

- ・学習における使用は、約8割の小中学生が1時間未満である。
- ・昨年度と比較すると、小学生では1時間未満の使用が5ポイント程度減り、それ以上の時間使用している割合が増えている。中学生では大きな変化は見られない。

今後の情報モラル教育等の方向性について

(4) 何時間使用しているか（平日・学習以外）について（児童生徒 単一回答 単位：％）



- ・小学生では7割程度が2時間以内の利用である。中学生になると利用時間が全体的に増加傾向となっている。
- ・昨年度と比較しても小学生・中学生ともに大きな変化は見られない。

(5) 何時ころまで使用しているか（平日・学習以外）について（児童生徒 単一回答 単位：％）

	8時前	9時	10時	11時	12時	1時	2時	3時過ぎ
小学生	42.3	34.9	15.0	4.3	1.6	0.8	0.3	0.8
中学生	10.9	25.2	30.3	18.2	9.7	2.7	1.4	1.7

- ・小学生では7割程度が2時間以内の利用である。中学生になると利用時間が全体的に増加傾向となっている。
- ・昨年度と比較すると、夜10時以降も使用している児童生徒の割合は、小学生で2ポイント、中学生で10ポイント増えている。

(6) ネットトラブルについて

①スマホを使って困った（心配な）事は？（児童生徒 複数回答 単位：％）

	勉強中や寝ているときラインやショートメールなどが来て困った	オンラインゲームのボイスチャットでいやな思いをした（けんかや脅し等）	個人情報、動画、写真を無断でアップされていやな思いをした	SNSやメールでいやな思いをした（しつこい、悪口を言われた）	ネットやゲームをしていて、お金がかかるのか心配になった	課金でおこづかいが減ってしまうことがある。課金がなかなかやめられない	アダルトの広告や怪しい広告が出てきていやな思いをした	迷惑メールが来るようになった	特にない
小	4.4	4.2	0.3	1.3	6.6	2.2	3.9	1.1	51.9
中	10.6	4.0	3.1	3.6	4.6	1.7	5.3	2.6	56.3

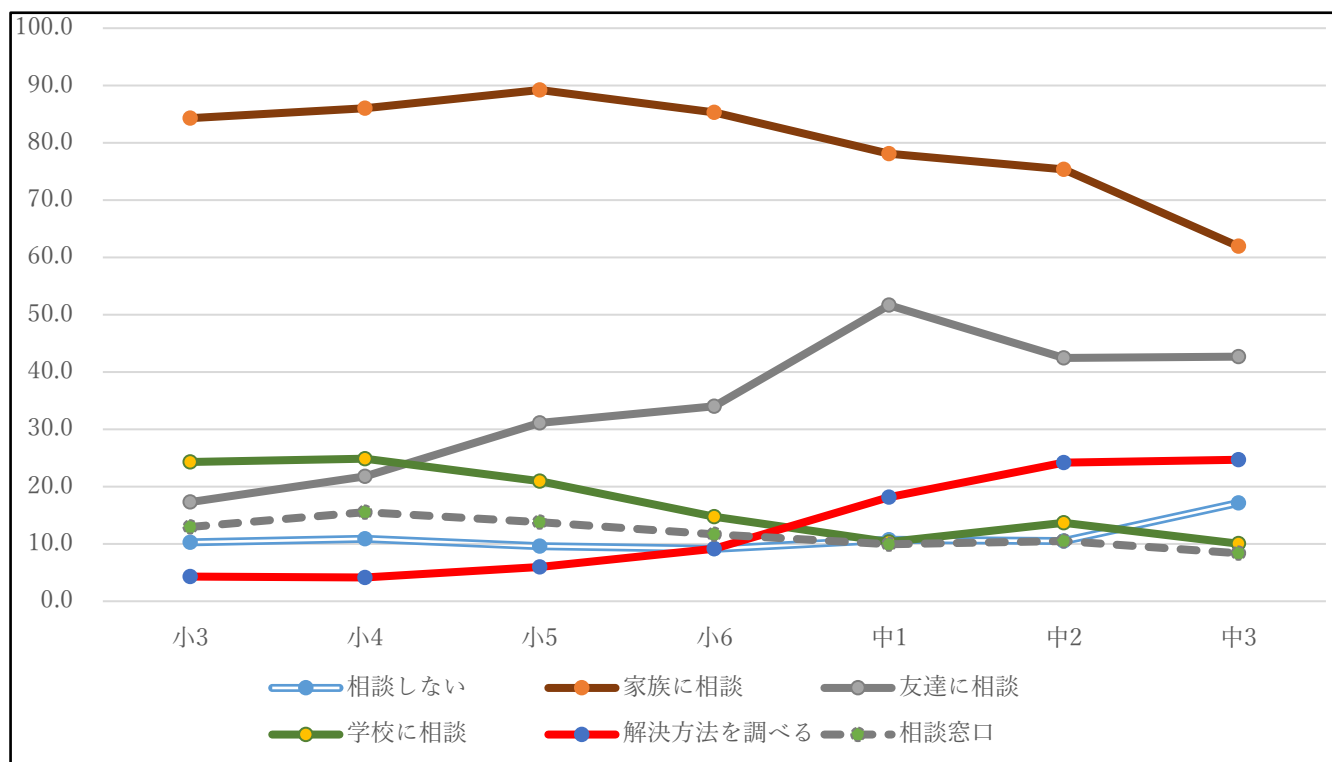
今後の情報モラル教育等の方向性について

②お子様に実際にトラブルが起きたことはありますか（保護者 複数回答 単位：％）

	(a) ゲーム のボイス チャット などで トラブル になった	(b) 動画や写 真をアップ されて（ア ップして） トラブルに なった	(c) SNS 等 で悪口を 書かれたり いじめら れたたり した	(d) SNS で 知らない 人からメ ッセージ が来てい やがって いた 付 きまとわ れた	(e) 架空請 求やワ ンクリッ ク詐欺 の被害 にあっ た	(f) 親に無 断で課 金して いた	(g) 友だちと お金（プリ ペイドカ ードなど も含む） のトラブ ルがあっ た	(h) SNS や ゲーム、 スマホの アカウン トを乗っ 取られた	(i) 裸などの 写真を送 れと言わ れて（一 方的に送 られてき て）困っ ていた	(j) 個人情 報が流 出した	(l) その他 自由 記述	(k) 起きて いない
小学生 保護者	4.1	0.0	0.0	1.9	0.0	0.4	0.0	0.4	0.0	3.0	4.1	92.1
中学生 保護者	0.0	1.2	2.5	4.9	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	3.7	0.0	87.7

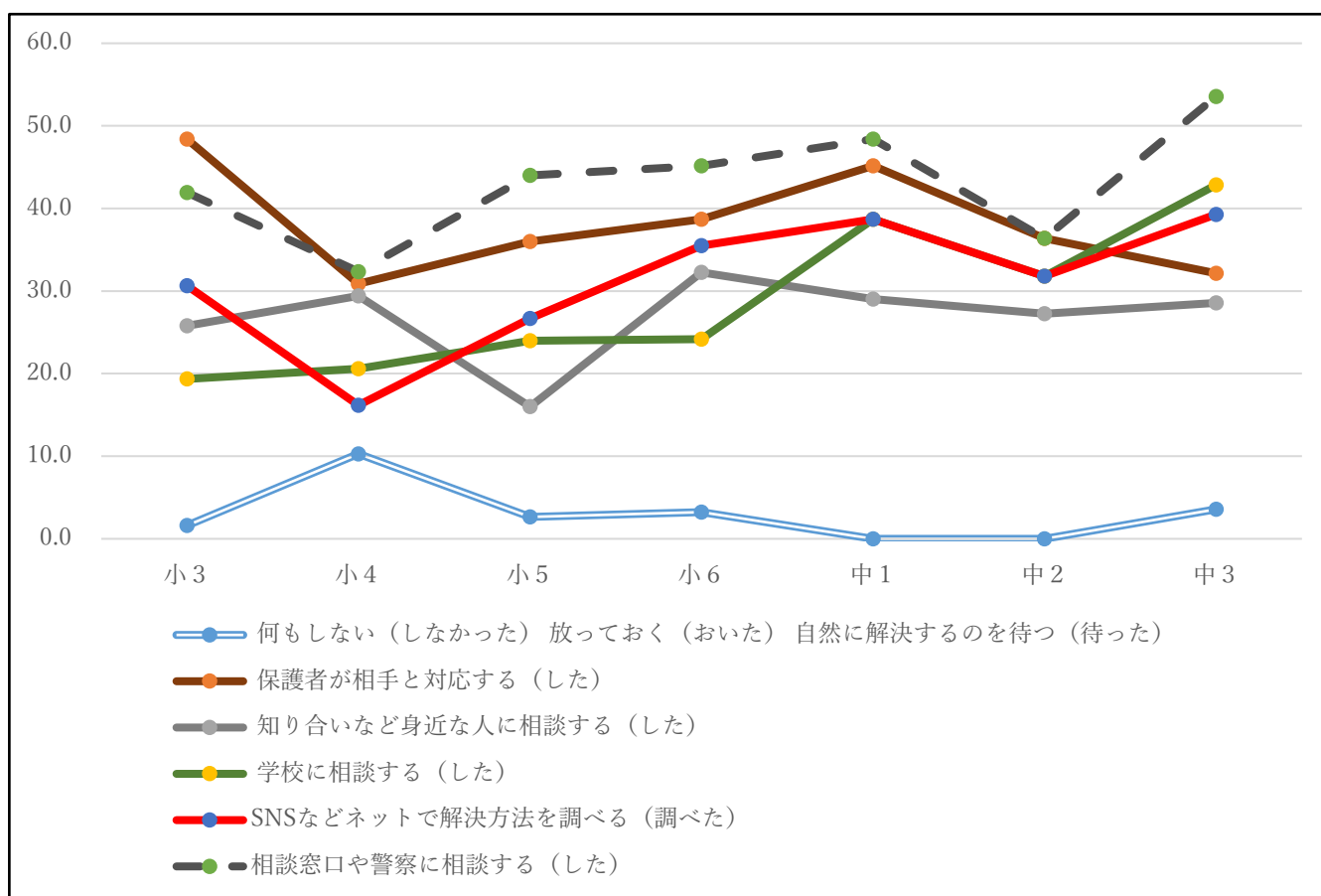
- ・スマホ等を使って困った（心配な）事が「とくにない」と答えた児童生徒は5割程度であるのに対し、トラブルが「起きていない」と認識している保護者は9割程度であった。
- ・昨年度と比較しても、発生したトラブルの内訳（割合）に大きな変化は見られない。

③トラブルが起きた時どうしたいか（どうしたか）（児童生徒 複数回答 単位：％）



今後の情報モラル教育等の方向性について

④トラブルが起きた時どうしたいか（どうしたか）（保護者 複数回答 単位：％）



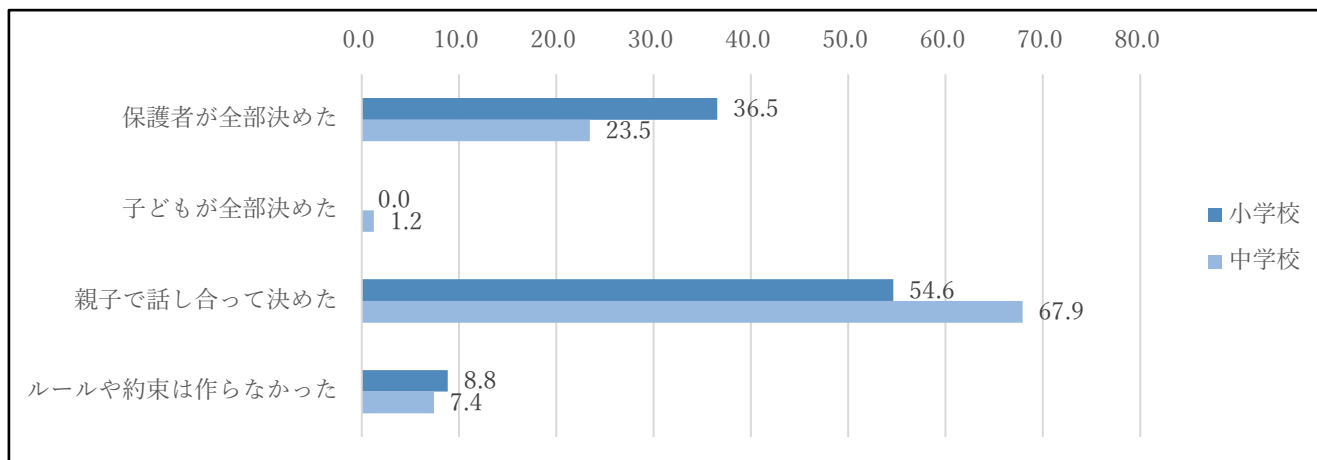
- ・児童生徒は「家族に相談する」という回答がどの学年でも最も多かった。保護者の相談先は「相談窓口や警察」や「学校に相談する」という回答が多かった。
- ・児童生徒の1割程度が「人に相談しない」と回答している。
- ・児童生徒・保護者ともに長野県と同じ傾向である。
- ・昨年度と比較しても、全体的な傾向に大きな変化は見られない。

今後の情報モラル教育等の方向性について

(7) 家庭でのルールや約束について

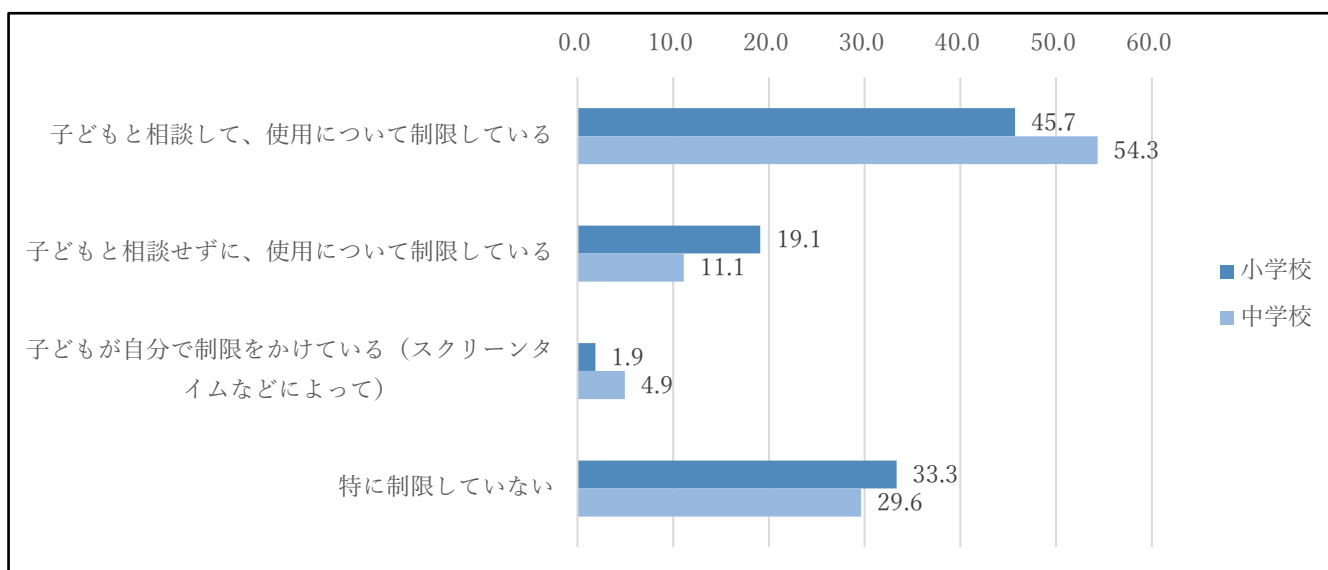
①家庭での使い方のルールや約束について心がけたことや意識したことはありますか

(保護者 単一回答 単位：%)



②お子さんの ICT 機器の使用を、アプリなどによって制限していますか？

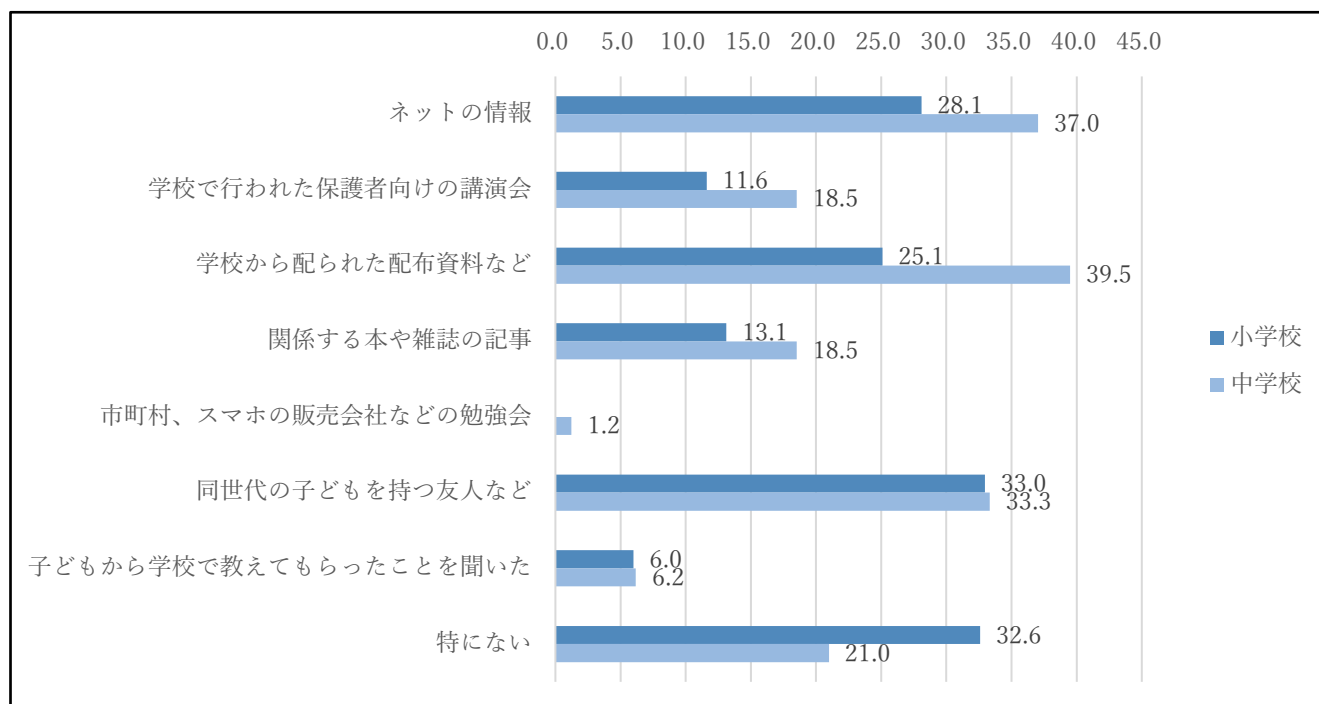
(保護者 複数回答 単位：%)



今後の情報モラル教育等の方向性について

③子どものスマホの利用について考えるときに参考にしたことはありますか？

(保護者 複数回答 単位：%)



- ・子どもの ICT 機器利用の制限について、保護者が決める（子どもと相談をして決めたものを含む）割合に対して、子ども自身が制限をかけている割合は非常に低い。
- ・保護者の半数がルールや約束づくりの際に「親子で話し合っ て決めた」と回答している。
- ・県と比較すると、中学生の場合、親子で話し合っ てルールを決めた と答える割合が高い。
- ・子どものスマホ利用を考える時、ネットの情報、学校からの資料や同世代の保護者からの情報を参考にすることが多い。
- ・昨年度と比較しても、全体的な傾向に大きな変化は見られない。

2 参考

I OECD 生徒の学習到達度調査 PISA2022 の結果（抜粋）

PISA調査とは

- 義務教育修了段階の15歳の生徒が持っている知識や技能を、実生活の様々な場面で直面する課題にどの程度活用できるかを測ることを目的とした調査。
- 読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーの3分野について、2000年以降、おおむね3年ごとに調査実施。各回で3分野のうちの1分野を順番に中心分野として重点的に調査。
- 2015年調査より、筆記型調査からコンピュータ使用型調査(CBT)に移行。
- 平均得点は経年比較可能な設計。
 - ※平均得点を比較する場合は、数値の差を見るだけではなく、統計的に意味のある差（有意差）の有無の確認が重要。
- 3分野の調査結果を生徒や学校が持つ様々な特性との関連によって分析するため、質問調査（生徒質問調査、ICT活用調査（生徒対象）、学校質問調査）も併せて実施。

○日本の生徒の情報モラルは、OECD諸国と比較すると高い。

(i) ICT活用調査 問12 インターネット上の情報に対する考え方・実践（日本）

「次のようなことは、あなたにどのくらいあてはまりますか。」

※「まったくその通りだ」「その通りだ」と回答した生徒の割合



PISA 調査結果を踏まえた文部科学省の取組（抜粋）

2. GIGAスクール構想の推進と情報教育の更なる充実

(2) 情報教育の更なる充実等

- ・情報モラル教育の更なる充実を図る。
（情報や危険な情報があることを考えさせる学習活動や真偽の検証（ファクトチェック）に関する授業の推進等。）

出典：PISA2022 のポイント（国立教育政策研究所）

Ⅱ 文部科学省 生成 AI の利用に関する暫定的なガイドライン（抜粋）

3. 生成AIの教育利用の方向性

（1）基本的な考え方

- 学習指導要領は、「情報活用能力」を学習の基盤となる資質・能力と位置づけ、情報技術を学習や日常生活に活用できるようにすることの重要性を強調している。このことを踏まえれば、新たな情報技術であり、多くの社会人が生産性の向上に活用している生成AIが、どのような仕組みで動いているかという理解や、どのように学びに活かしていくかという視点、近い将来使いこなすための力を意識的に育てていく姿勢は重要である。
- その一方、生成AIは発展途上にあり、多大な利便性の反面、個人情報流出、著作権侵害のリスク、偽情報の拡散、批判的思考力や創造性、学習意欲への影響等、様々な懸念も指摘されており、教育現場における活用に当たっては、児童生徒の発達の段階を十分に考慮する必要がある（各種サービスの利用規約でも年齢制限や保護者同意が課されている）。
- 以上を踏まえ、教育利用に当たっては、利用規約の遵守はもとより、事前に生成AIの性質やメリット・デメリット、AIには自我や人格がないこと、生成AIに全てを委ねるのではなく自己の判断や考えが重要であることを十分に理解させることや、発達の段階や子供の実態を踏まえ、そうした教育活動が可能であるかどうかの見極めが重要と考えられる。その上で、個別の学習活動での活用の適否については、学習指導要領に示す資質・能力の育成を阻害しないか、教育活動の目的を達成する観点で効果的か否かで判断すべきである（生成AIの性質等を理解できない段階、学習目的達成につながらない、適正な評価の阻害や不正行為に繋がる等の場合は活用すべきでない）。こうした判断を適切に行うためには教師の側にも一定のAIリテラシーが必要である。
- また、忘れてはならないことは、真偽の程は別として手軽に回答を得られるデジタル時代であるからこそ、根本に立ち返り、学ぶことの意義についての理解を深める指導が重要となる。また、人間中心の発想で生成AIを使いこなしていくためにも、各教科等で学ぶ知識や文章を読み解く力、物事を批判的に考察する力、問題意識を常に持ち、問を立て続けることや、その前提としての「学びに向かう力、人間性等」の涵養がこれまで以上に重要になる。そうした教育を拡充するためには、体験活動の充実をはじめ、教育活動におけるデジタルとリアルのバランスや調和に一層留意する必要がある。

総合的に勘案

- ① 現時点では活用が有効な場面を検証しつつ、限定的な利用から始めることが適切である。生成AIを取り巻く懸念やリスクに十分な対策を講じることができる一部の学校において、個人情報保護やセキュリティ、著作権等に十分に留意しつつ、パイロット的な取組を進め、成果・課題を十分に検証し、今後の更なる議論に資することが必要である。
- ② その一方、学校外で使われる可能性を踏まえ、全ての学校で、情報の真偽を確かめること（いわゆるファクトチェック）の習慣付けも含め、情報活用能力を育む教育活動を一層充実させ、AI時代に必要な資質・能力の向上を図る必要がある。
- ③ 教員研修や校務での適切な活用に向けた取組を推進し、教師のAIリテラシー向上や働き方改革に繋げる必要がある。 4/24

（2）生成AI活用の適否に関する暫定的な考え方

- 子供の発達の段階や実態を踏まえ、年齢制限・保護者同意等の利用規約の遵守を前提に、教育活動や学習評価の目的を達成する上で、生成AIの利用が効果的か否かで判断することを基本とする（特に小学校段階の児童に利用させることには慎重な対応を取る必要がある）。
- まずは、生成AIへの懸念に十分な対策を講じられる学校でパイロット的に取り組むことが適当。

利用規約：ChatGPT…13歳以上、18歳未満は保護者同意

Bing Chat…成年、未成年は保護者同意

Bard…18歳以上

出典：初等中等教育段階における生成 AI の利用に関する暫定的なガイドライン ver1.0
(文部科学省初等中等教育局)